

# 被服支廠の価値について

高田 真

アーキワーク広島 代表



# 0. 自己紹介

## 1. 被服支廠倉庫をとらえるポイント

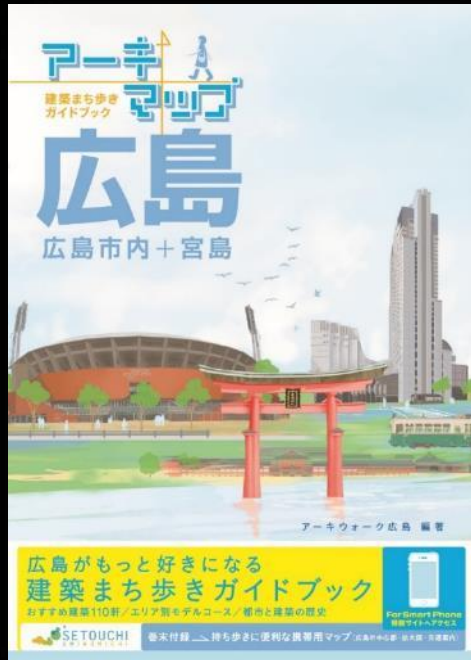
- ① 圧倒的な大きさ
- ② 広島近代史を体現する存在
- ③ レンガ＋RC、レトロ＋モダン
- ④ 貴重な被爆遺構、しかも使える

## 2. 活用を考えるポイント

# 0. 自己紹介

# ■アーキウォーク広島について

- ・ 建築好きな市民の集まり、 2009年結成
- ・ 広島の建築の魅力を内外に発信する活動を展開
  - ・ 建築ガイドブックの発行
  - ・ 建築公開イベントの開催 等





## ■被服支廠倉庫に関する活動

- ・被服支廠の根本的な課題は**知られていないこと**と捉え、知ってもらうための活動を続けてきた。

2014年 日本建築学会による学術調査をアレンジ

2016年 一般向け見学会とシンポジウムを開催

2017年 紹介冊子「見、知り、訪れ、想う」発行

2019年 ひろしまたてものがたりフェスタの一環  
で一般向け見学会を開催

2020年 保存再生案を作成、シンポジウム開催  
現地見学会を15回開催（計940名参加）

2021年 現地見学会 1回開催（130名参加）

# ■一般向け見学会（2016年）



# ■一般向け見学会（2016年）





# ■シンポジウム（2016年）

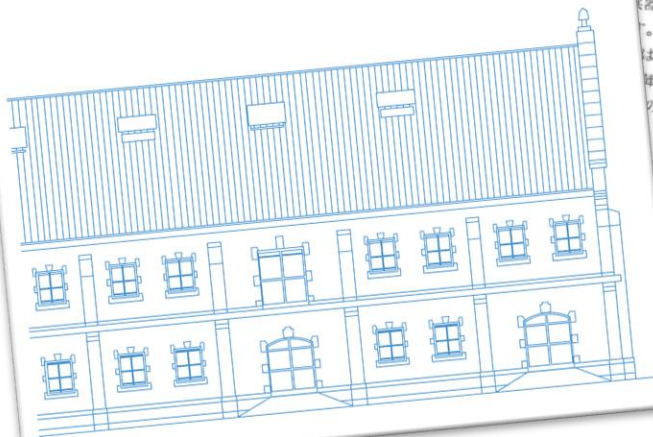




# ■記録冊子の作成（2017年）

## 旧広島陸軍被服支廠倉庫 見、知り、訪れ、想う。

FORMER HIROSHIMA ARMY CLOTHING DEPOT  
SEE, LEARN, VISIT, IMAGINE



レトロな明治とモダンな昭和の間にある大正の建築

「レトロな明治とモダンな昭和の共存」といえます。被服支廠倉庫は前述した国内最古級の建物ですが、外観はレンガ造に見えてはいるだけでかという、それも違います。RCとレンガ造の共存が特徴です。

まずレンガを積んで壁を作り、内部の柱や床は木（鉄骨）で、半分木造ともいえます。明治期に日本で建てられる建物で、外壁は従来どおりレンガを積んで作っておき、内部はRCという設計になっています。関東大震災以降、RC造の建物が増えるようになるので、震災前の建物である被服支廠倉庫はRC造の建物です。

外壁や内部の仕切り壁はRCではなく全てレンガ造になっているのもレンガ造によく見られる特徴です。また、室内にはこれを支えるRCの柱を立てて、平らな屋根としています。

被服支廠倉庫もRCという点です。例えば旧陸軍嘯秣支廠倉庫で壁を作り鉄の小屋組を載せて屋根を作ったように、被服支廠倉庫でも松杭が使われたのに対し、RCの柱を立てた。結果的に不同沈下（建物が地面に沈み込む）を防ぐ先端技術を採用したものと想われます。被服支廠倉庫は第五師団の技師と思われませんが、裏付けはできません。

### Features

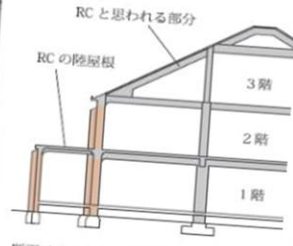
While employing the style of the ferroconcrete technology used for the buildings, the walls and columns have been made of wood or iron. That is to say, while the latest ferroconcrete technology was used for the structure, the details. These features give the buildings a unique appearance.



旧被服支廠倉庫3階の小屋組。屋根板も含めて全てRCで作られている。独特な空間に天



旧被服支廠倉庫の1階。壁はレンガで柱・梁・床はRC。従来の技術であるレンガ造をベースに、RCを組み合わせているように思える。



断面イメージ。レンガとRCの詳細な構造



欧州の古い建物の柱・梁・床は

# 保存再生案の作成 (2020年)



## 旧陸軍被服支廠倉庫 再生イメージ

旧広島陸軍被服支廠に係る安全対策等の対応方針に係る意見 (別紙)  
提出者: 高田 真 (アーネウオーク広島 代表)



### 計画地の位置づけ・解釈

- 近代広島のなりたちを体現し、人類に残された最大規模の被爆遺構  
広島市の歴史を学び、復興と発展を定めた人々の活動を知る、世界への発信機能の醸成を促す。
- 軍需工場だった土地の記憶  
ものづくりの場としての土地の記憶を継承し、創造的な活動を育み発信していく。
- 周囲には学校・住宅地が形成  
駅前は商業地帯に位置し、周辺部の開発も積極的であるため、適切な事業開発の形は選べる。

### 公民連携による事業推進

倉庫は規模が大きいため、4層それぞれで保存事業の趣旨を分け、都市・歴史の両面において、各種の分野に応じた公民連携チームを推進する。

- 1号棟 都市を重視し、現存の姿を保持しながら1階はよりアート拠点・資料館等に改造。2階は歴史館として活用し、広島の中心となる。
- 2号棟 近郊を重視し歴史館や工房、ショップ、カフェス等が主体。隣の起業支援施設も入居。
- 3号棟 近郊を重視し歴史館やホテル・駐車場施設に改造。整備後の外観も重視。

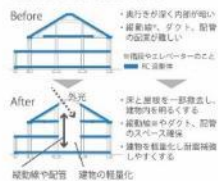
### 周辺環境に配慮した交通計画

敷地内の車道は一方通行にするとともに、アクセスが容易な自転車道に誘入し、歩道を確保する。



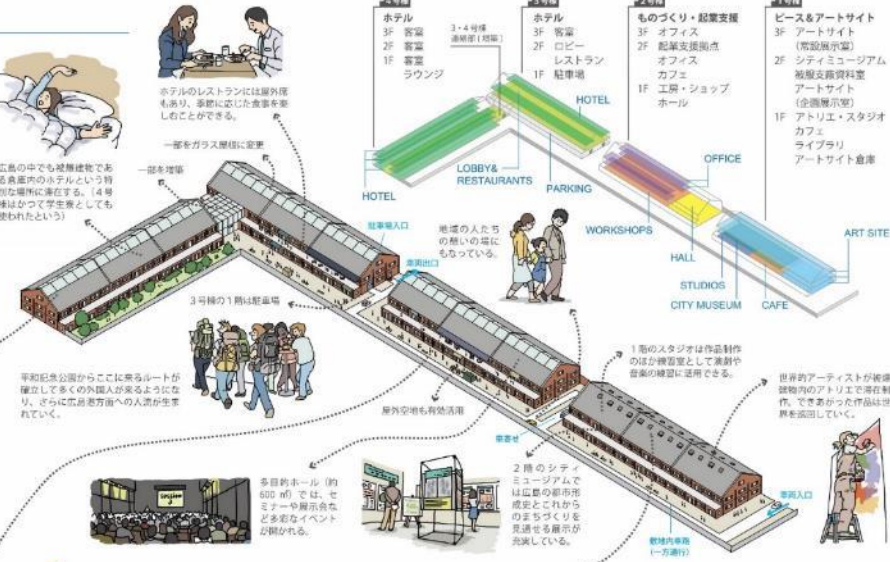
### 2~4号棟は床・屋根を一部撤去

計画で指定する「遺留をしておく」2~4号棟については、歴史を重視して建物の大規模な改修を行う。

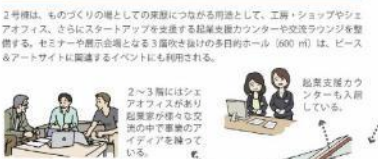


■ 人類社会に残された最大規模の被爆建物を活用し、アートを軸とするピースメッセージの発信、ものづくり・スタートアップの支援拠点へと再生させる。  
■ 公民連携事業により、民間資本でのホテルなどの収益施設を導入することで、所有者(国・県)の負担軽減を図る。

### 34号棟 ライフスタイルホテル



### 2号棟 ものづくり・スタートアップ支援



### 1号棟 ピース&アートサイト



# 1. 被服支廠倉庫を とらえるポイント

# 被服支廠倉庫をとらえるポイント

- ① 圧倒的な大きさ
- ② 広島近代史を体現する存在
- ③ レンガ＋R C、レトロ＋モダン
- ④ 貴重な被爆遺構、しかも使える



# 被服支廠倉庫をとらえるポイント

**① 圧倒的な大きさ**

---

② 広島近代史を体現する存在

③ レンガ＋RC、レトロ＋モダン

④ 貴重な被爆遺構、しかも使える

# ■江戸時代の新開地（元は遠浅の海）で農地 だった場所に建設された大規模な軍需工場



被服支廠建設当時（1905年）レンガ倉庫はまだない。（広島市公文書館所蔵）

# ■江戸時代の新開地（元は遠浅の海）で農地 だった場所に建設された大規模な軍需工場

旧13番庫（現1号棟）

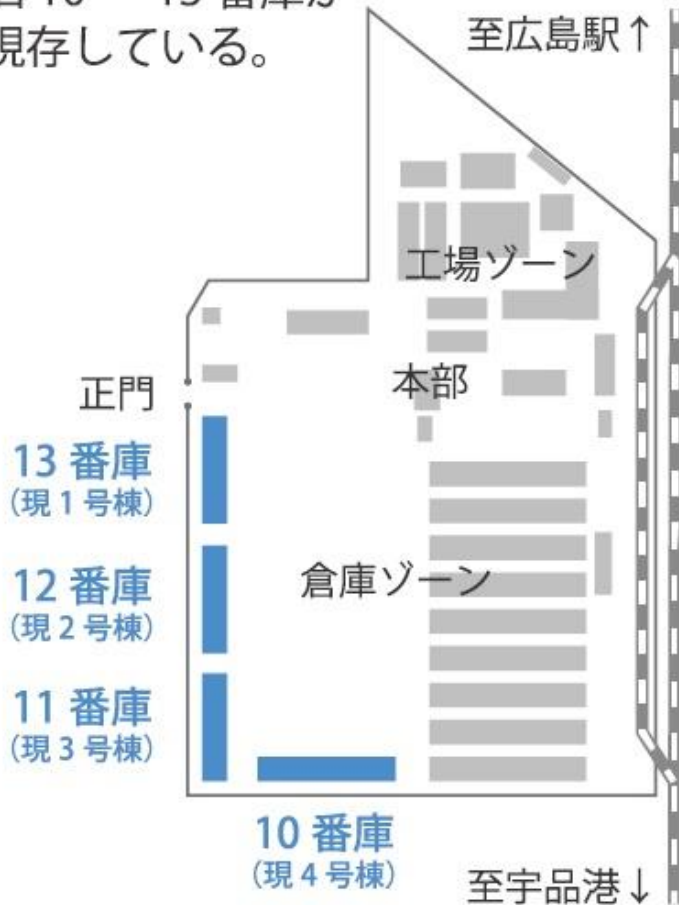
事務所棟（1967年解体）

レンガ塀（2020年解体）

# ■現存するのはレンガ倉庫4棟のみであり、 往時の敷地のごく一部に過ぎないが...



旧10～13番庫が  
現存している。

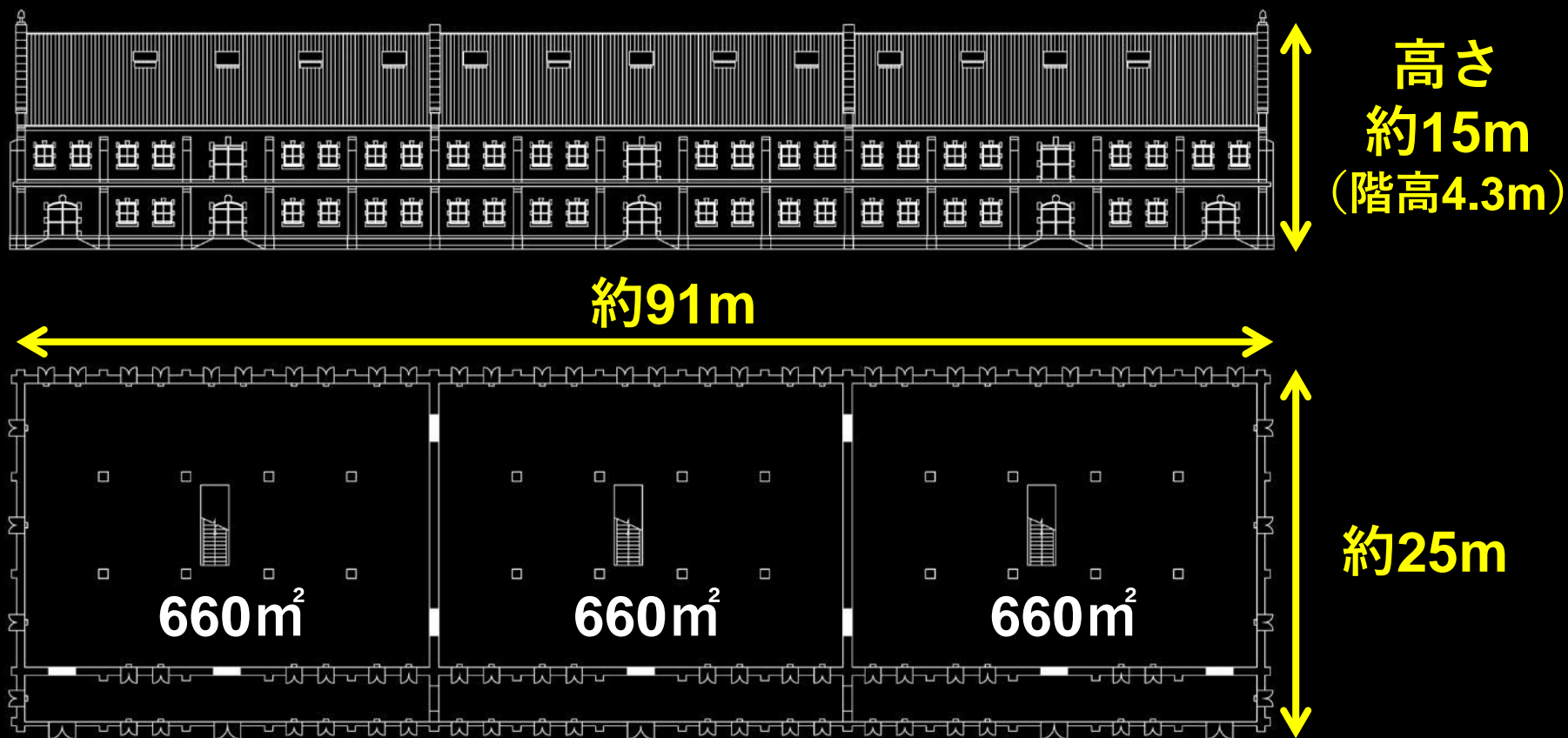




■それでも百米級の建屋が並ぶ**圧倒的な大きさ**  
連続するレンガ壁面として国内最長クラス



# ■床面積は4棟で約23,000m<sup>2</sup>



レンガ壁で仕切られた大部屋が3室×3層×4棟=36室ある

1棟の床面積5,500m<sup>2</sup> ⇒ 4棟で約23,000m<sup>2</sup>

ここでは国所有の4号棟も含めた全体像を示す。数字はアーキウォーク広島調べによる（大まかな目安）

# ■23,000㎡は横浜赤レンガ倉庫をも上回る

---

横浜赤レンガ倉庫  
延床約16,200㎡  
(5500 + 10700)



広島パルコ本館  
延床約23,000㎡ (売場約13,000㎡)

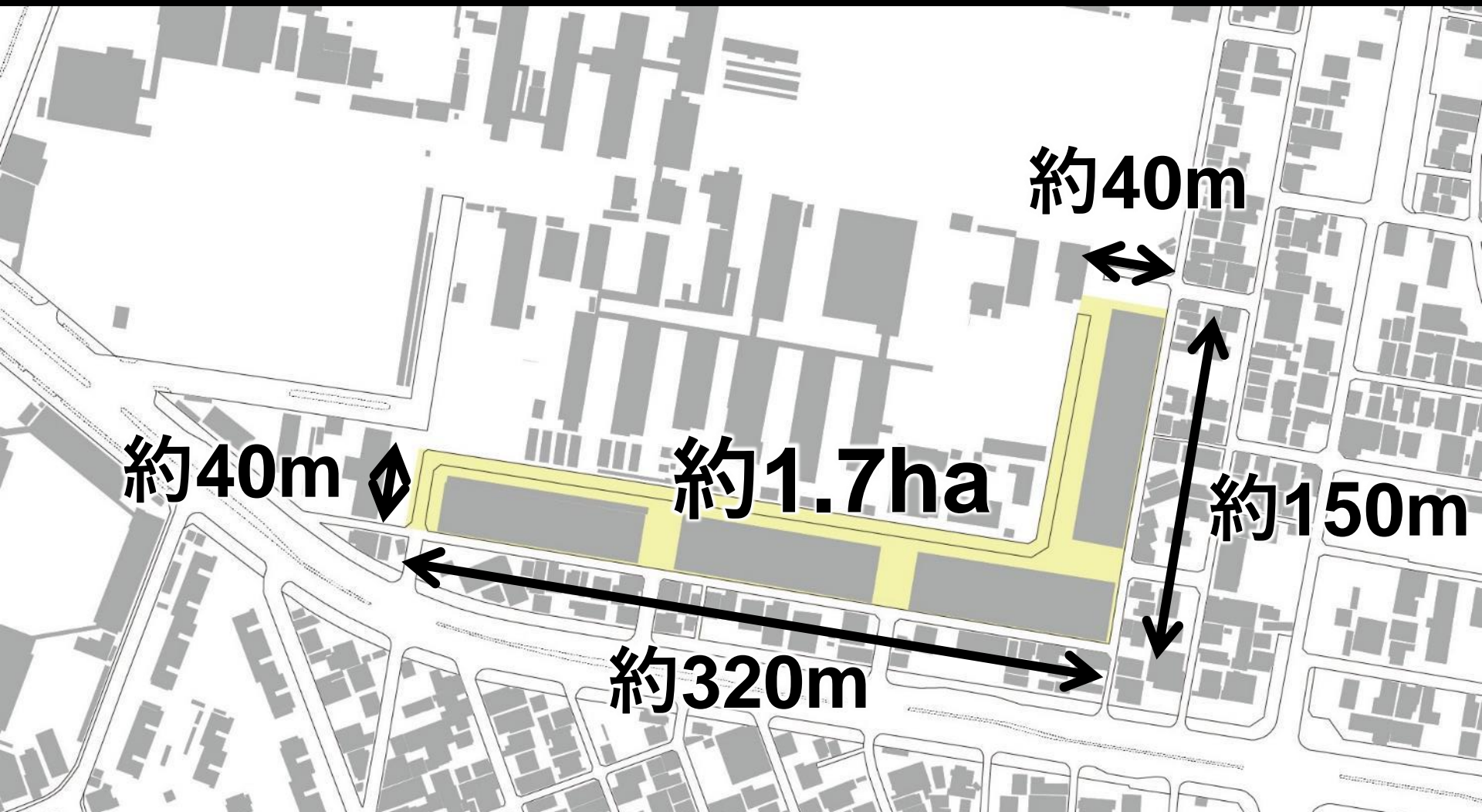


広島市まちづくり市民交流プラザ  
延床約5,800㎡ (校舎除く)





# ■現状の敷地は約1.7ha



アーキウォーク広島 調べによる（地図を計測しており精度は高くない）



# 被服支廠倉庫をとらえるポイント

- ① 圧倒的な大きさ
- ② 広島近代史を体現する存在
- ③ レンガ + R C、レトロ + モダン
- ④ 貴重な被爆遺構、しかも使える

■被服支廠の先には港、更に先には大陸がある  
(宇品港には陸軍運輸部の本拠地があった)



# ■被服支廠倉庫は市内最大の近代化遺産であり “軍都のスケール”を体感できる唯一の場所



旧10～13番庫が  
現存している。





- 軍都として発展した**広島**の近代史を体現する**存在**であり、仮に被爆していなかったとしても重要性は変わらない。
- 歴史を学ぶには書物で知識を得るだけでなく**五感**で得る**実感**が不可欠。4棟が揃って残る意義は“**実感を得る機会**”にある。

ここに身を置くだけで、広島  
の近代史を直感的に理解できる



# 被服支廠倉庫をとらえるポイント

- ① 圧倒的な大きさ
- ② 広島近代史を体現する存在
- ③ レンガ + RC、レトロ + モダン
- ④ 貴重な被爆遺構、しかも使える

■本作の竣工は1913年で、R C（鉄筋コンクリート）造の建物として**日本最古級**。



1911年  
旧三井物産  
横浜支店



1903年  
フランクリン通りの  
アパート（フランス）

■**レンガとR Cを併用**する極めて珍しい※1  
構造であり、レンガからR Cへと移行する  
過渡期の様相をよくとどめる。

■関東大震災前の建築だが、広島は既に芸予地震※2を経験し耐震性の意識はあったと推察

---

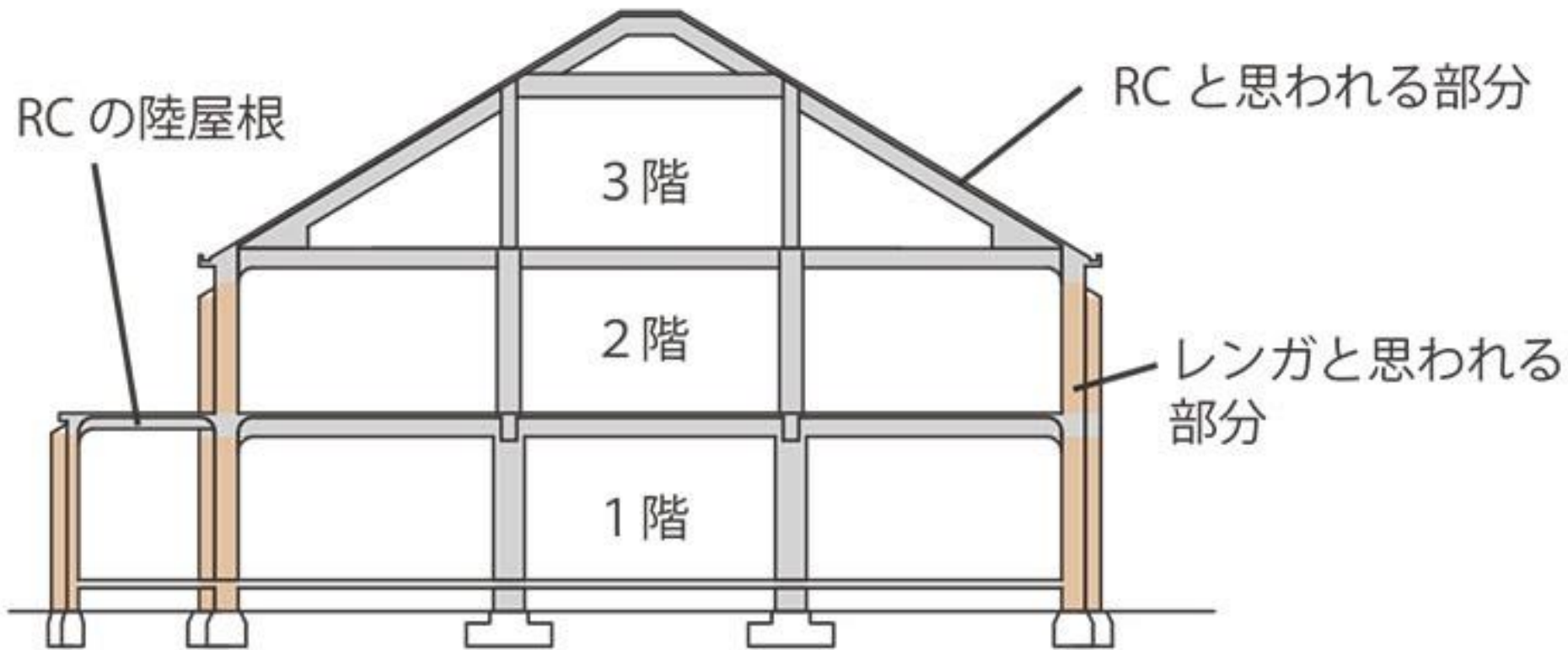
※1 他の現存例としては佐世保の旧海軍凱旋記念館がある。

※2 1905年の芸予地震ではレンガ造だった呉の海軍施設が一部倒壊した

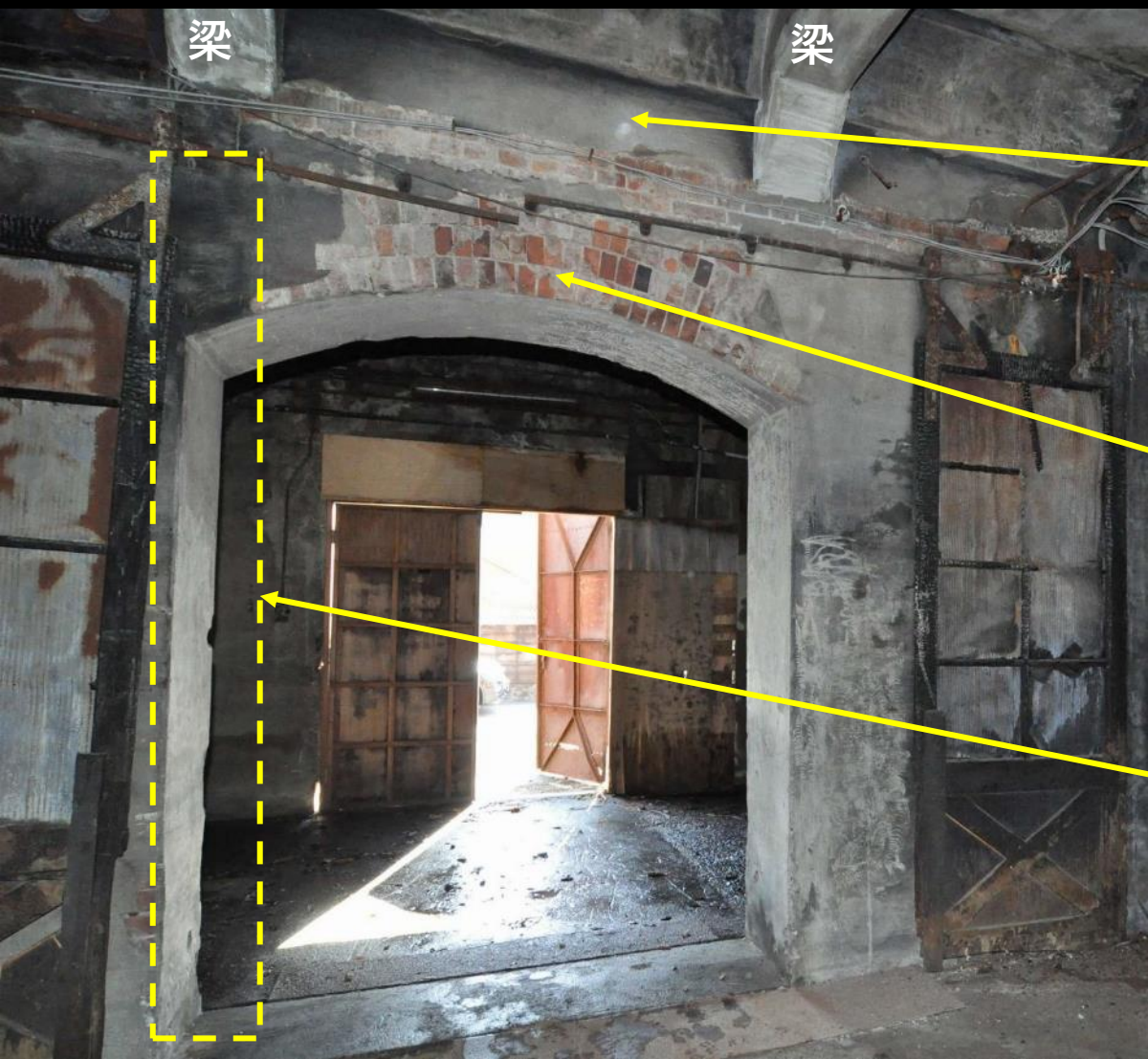


## ■レンガとRCの併用（イメージ）

レンガとRCの併用に加え、屋根がRCというのは大変珍しい。技術的なチャレンジが伺える。



■ レンガ壁の上にRCの梁やスラブが載っており、現代の感覚では奇異に映る箇所も。



レンガ壁の上にRCの床板が載る

開口部はレンガのアーチ

RCの梁を受ける柱が無い！

(RCのラーメンではなく、あくまで組積造)

- レンガとR Cを併用した理由は不明。
- 本作はあくまでレンガ造であって、内部の柱や床（従来は木や鉄で作っていた）をR Cに置き換える技術的な試みがなされたと推測。



レンガ壁の上に木造の梁と床が直接載る

スオメンリンナ要塞  
（フィンランド）の  
旧陸軍倉庫



■外壁と内部で構造を変えた結果、空間の印象も内外で全く違う。

赤レンガ  
...レトロな印象



■外壁と内部で構造を変えた結果、空間の印象も内外で全く違う。

コンクリートで大スパン  
...モダンな印象





■特に3階は、傾斜するRC屋根・太く斜めの梁・細い柱で構成される独特な内部空間に。



# ■戦後の若干の補修・追加箇所がみられる (2号棟1階)





■戦後の若干の補修・追加箇所がみられる  
(2号棟1階)



# ■ 4号棟は戦後に学生寮として使用された際の設えが残っている





# ■ 4号棟は戦後に学生寮として使用された際の設えが残っている





# ■建築として、他にも多数の見どころがある

石とRCで意匠を揃える

柱ではなく  
バットレス

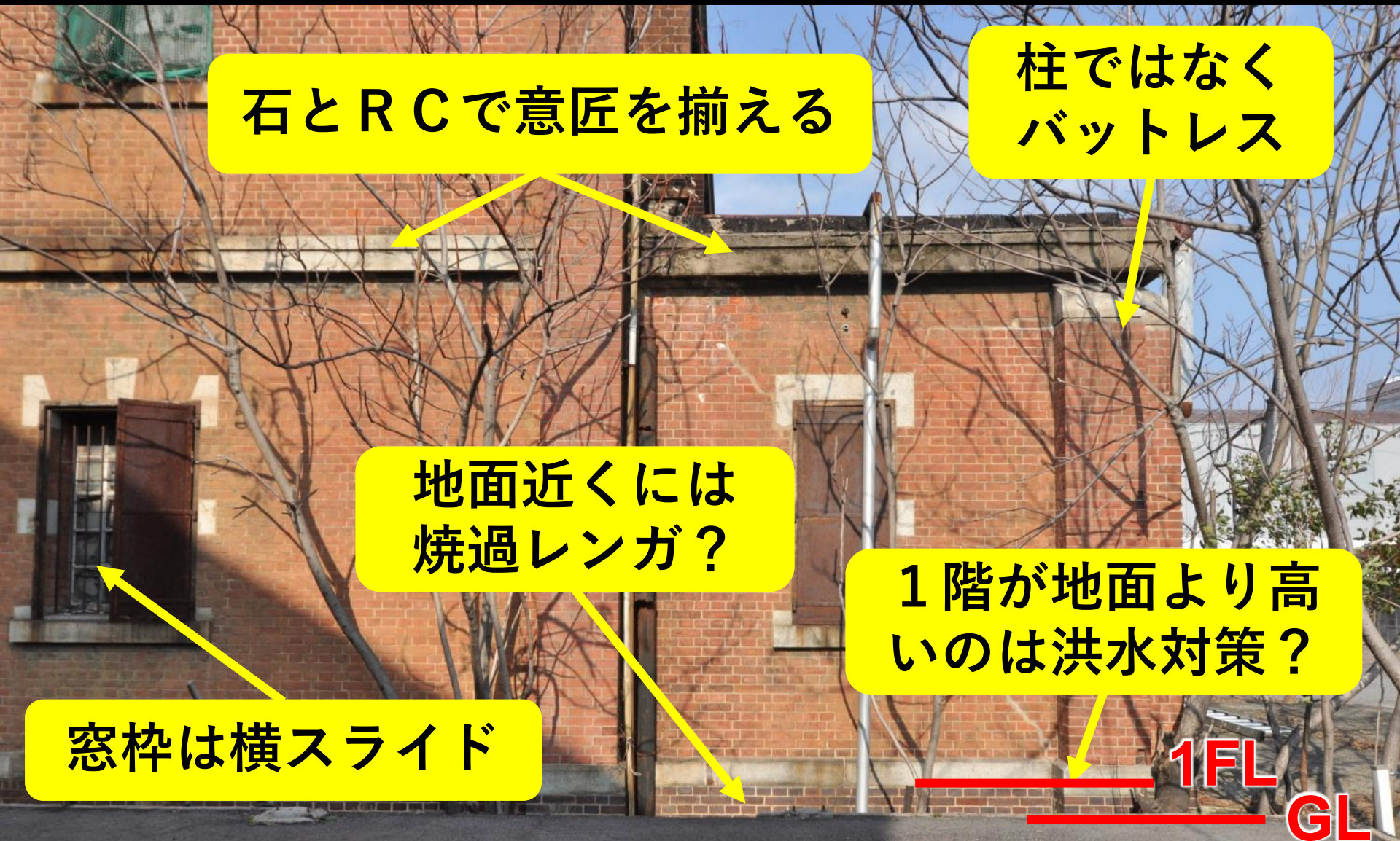
地面近くには  
焼過レンガ？

1階が地面より高いのは洪水対策？

窓枠は横スライド

1FL

GL





# 被服支廠倉庫をとらえるポイント

- ① 圧倒的な大きさ
- ② 広島近代史を体現する存在
- ③ レンガ＋R C、レトロ＋モダン
- ④ 貴重な被爆遺構、しかも使える

## ■被爆建物とは...

- ・ 広島市は爆心地から5km内のものと定義※<sup>1</sup>。被戦災建物に特別な意味を与える意識は他の戦災都市にはない※<sup>2</sup>特有のもの。
- ・ 被爆建物は、被爆者や被爆樹木等とともに原爆被害に遭遇した当事者とされ※<sup>3</sup>、その保全是公共性を帯びると捉えらえる。

---

※1 広島市 被爆建物等保存・継承実施要綱（1993年）

※2 原爆被害は通常空襲とは一線を画し、広島では戦災復興も特別法に基づく「平和記念都市建設計画」とされる。長崎では浦上天主堂の保存論争等を経て、現存する被爆建物は僅か（城山小校舎のみ？）

※3 例えば被爆建物に係る国の予算は被爆者援護の一環と整理されている

# ■被爆建物への意識も時代により変化しているが、建物数は減少の一途。

**1945年**

- 生活再建のため、焼け残った建物を使用（被爆建物という意識はない）
- 原爆ドームの保存論争。市は解体方針で市民は賛否が分かれる

↓

**節目①**

**1966年 原爆ドーム保存の市議会議決**

- 高度成長期に多数の被爆建物が解体され喪失
- 1985年 最大級の被爆建物だった旧市庁舎の解体
- 1990年 被爆建物の保存を求める市議会議決

↓

**節目②**

**1993年 被爆建物の把握と支援制度の創設（市）**

⇒被爆建物の定義（爆心地から5km）が定まる

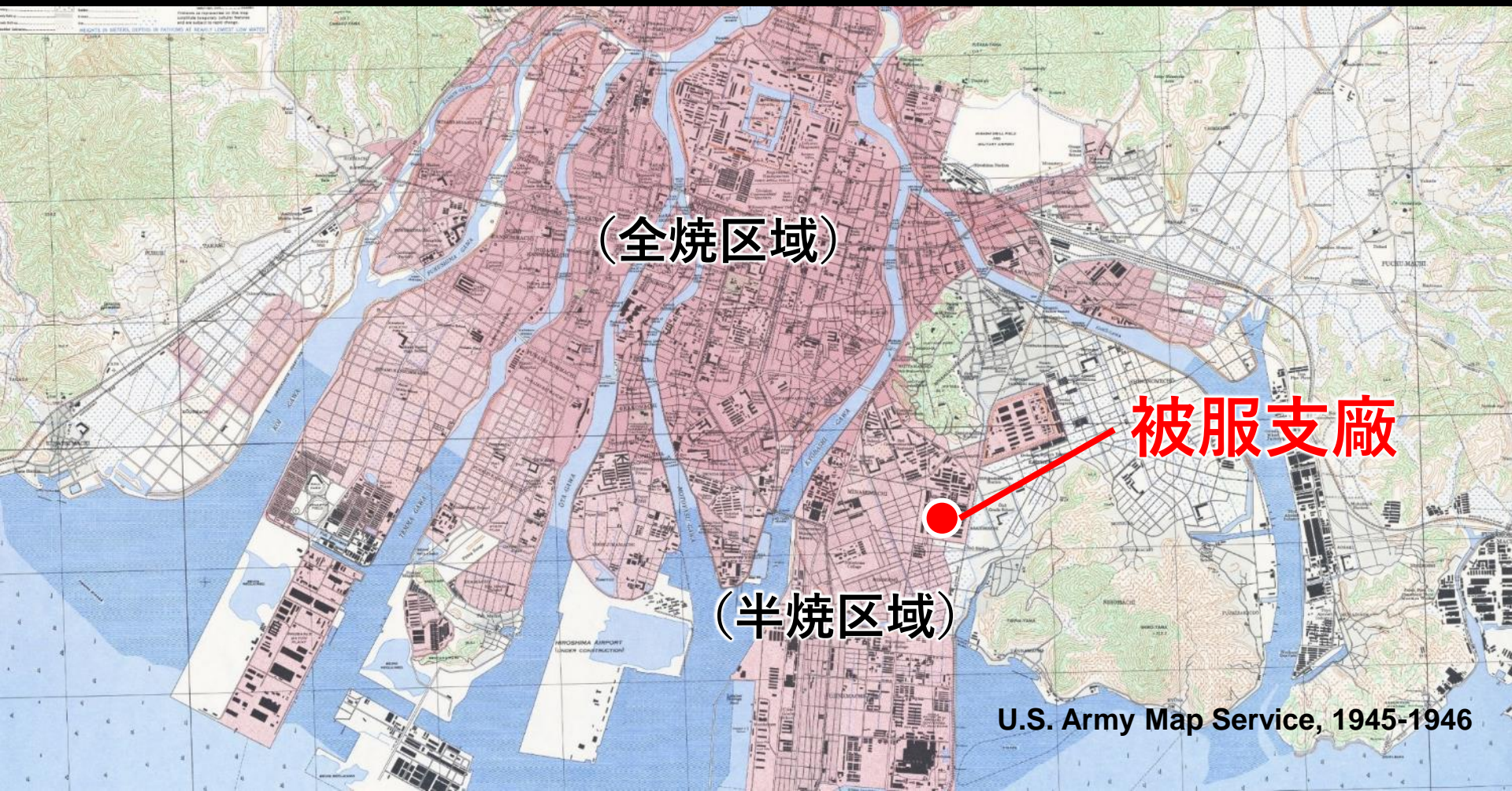
- 支援制度創設後も被爆建物の解体が相次ぐ
- 2016年 長崎では複数の被爆遺構をまとめて国史跡指定
- 2020年 被服支廠倉庫の保存論争

↓

**現在**



- 被爆時は焼失を免れるも爆風により損傷
- レンガ倉庫は臨時救護所となったため、建物内での死者数も最大級との指摘がある。





■レンガ倉庫は戦後もそのまま使用されたため  
被爆時の姿がほぼ完全に残る。

⇒ 当事者がそこにいるという説得力





■レンガ倉庫は戦後もそのまま使用されたため  
被爆時の姿がほぼ完全に残る。  
⇒ 当事者がそこにいるという説得力



瓦もオリジナルの可能性大



■さらに、原爆ドーム等とは異なり、改修することで使い続ける（⇒何かを創造する）ことができる。



イメージ：KIITO（神戸市）



# 被服支廠倉庫をとらえるポイント

- ① 圧倒的な大きさ
- ② 広島近代史を体現する存在
- ③ レンガ＋R C、レトロ＋モダン
- ④ 貴重な被爆遺構、しかも使える

## 2. 活用を考えるポイント

# 2020年に独自に作成した再生イメージ



## 旧陸軍被服支廠倉庫 再生イメージ

旧広島陸軍被服支廠に係る安全対策等の対応方針に係る意見 (別紙)  
提出者：高田真(アーキワーク広島 代表)



### 計画地の位置づけ・解釈

- 近代広島の名残りを体現し、人類に残された最大規模の被爆遺構  
広島県広島市東区。復興と平和を語る人々の歴史を刻み、世界への情報発信の拠点を創出。
- 軍需工場だった土地の記憶  
ものづくりの場としての土地の記憶を継承し、創造的活動を促す場としていく。
- 産園には学校・住宅地が形成  
駅は住宅地域に近接し、周辺の新規住宅も建設が進む。近隣に商業施設も誘引される。

### 公民連携による事業推進

県民は高齢化が進んでいる。4層それぞれで保護施設を設け、高齢者・障害者の生活を支える。自身の生活に合った事業メニューを選べる。

- 1号棟 視覚を養い、現在の姿を体験しながら公民によりアート制作・資料展示の企画、運営は民間企業・NPOが中心となる。
- 2号棟 工場を再生し、民間企業で加工・シェアリング・カフェを創出。産園・産園センターも活用。
- 3号棟 工場を再生し民間企業でホテル・駐車場建設のほか、数層の外装改修も計画。

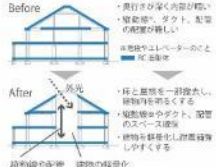
### 周辺環境に配慮した交通計画

駅周辺の歩道は一定幅にするとともに、アクセス専用が周辺地域に流入しないよう配慮する。



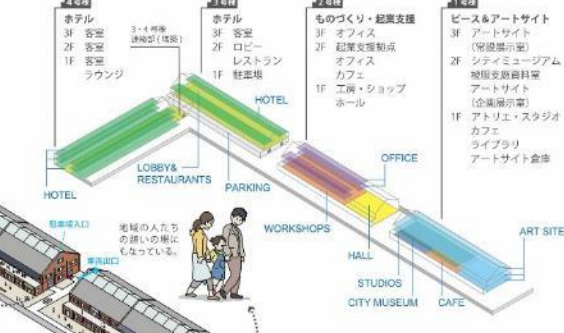
### 2〜4号棟は床・屋根を一部撤去

特に外装や内装・床を撤去して2〜4号棟については、高層を確保して動物の入居を可能にする。

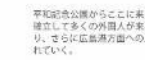


■ 人類社会に残された最大規模の被爆建物を活用し、アートを軸とするピースメッセージの発信、ものづくり・スタートアップの支援拠点へと再生させる。  
■ 公民連携事業により、民間資本でのホテルなどの収益施設を導入することで、所有者(国・県)の負担低減を図る。

### 34号棟 ライフスタイルホテル



### 2号棟 ものづくり・スタートアップ支援



### 1号棟 ピース&アートサイト



本資料は旧陸軍被服支廠倉庫の再生を議論する一つの材料となることを留意して作成しており、将来像のイメージおよびアイデアを提示するものです。関係者との調整を行ったものではなく、実現を担保するものではありません。



# ■再生イメージ作成時の考察

## 現地と建物の位置づけ・解釈

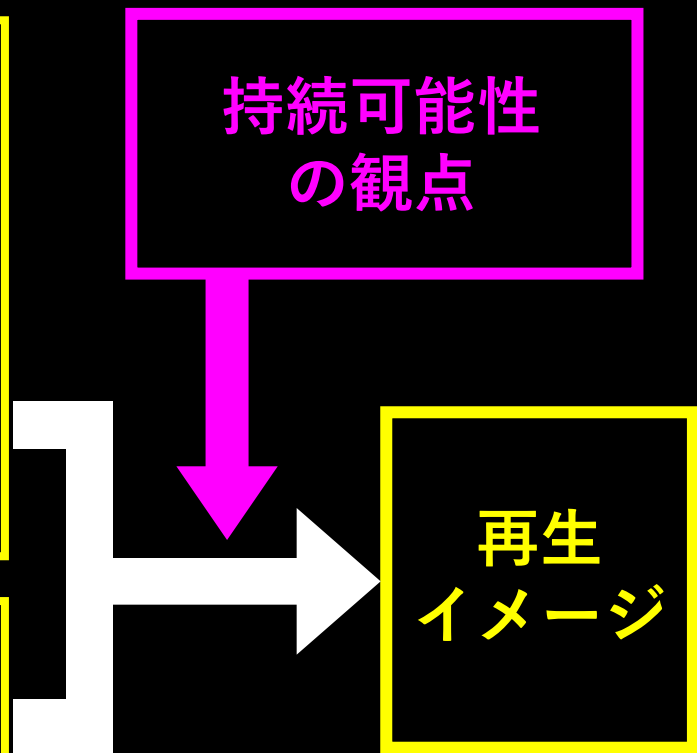
- 広島近代史を体現し、人類に残された最大級の被爆遺構
- 軍需工場だった土地の記憶
- 周辺の現況との調和

## 広島全体を見据えた課題意識

- 都市の記憶（近代化・戦災・復興）を説得力ある形で受け継ぐ必要性
- 丹下健三の「平和を創る工場」の機能を補完する必要性
- 地域経済にメリットを生む必要性

持続可能性  
の観点

再生  
イメージ



# ■ 持続可能性の観点

＜活用を前提とする保存＞

多くの人を訪れる用途の導入、運営上の工夫

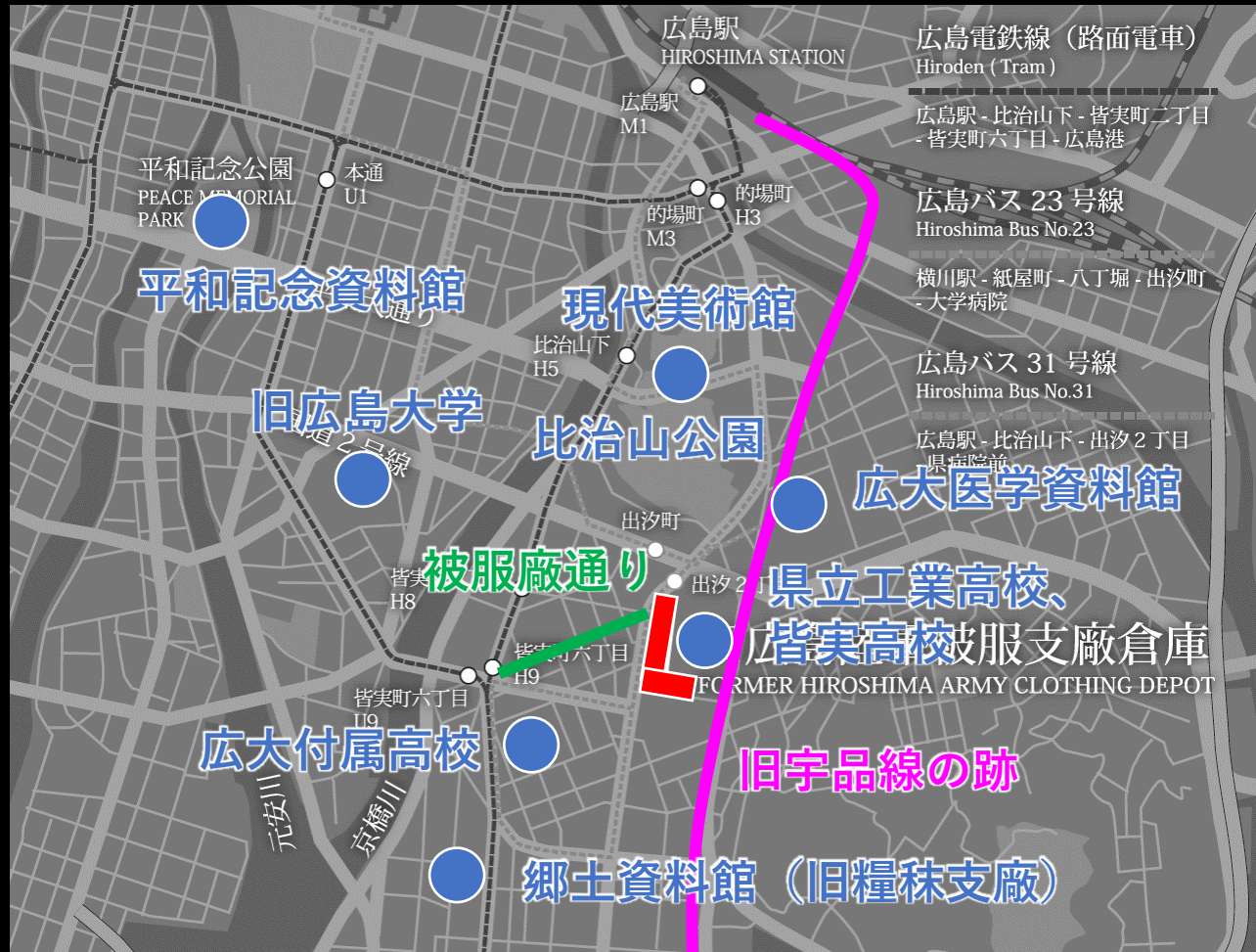
多くの人  
が愛着を  
感じる、  
誇りに  
思う

自らの  
維持費は  
自ら稼ぐ

建物を持続的に保存できる

# ■ 周辺の地域資源

- ・ 周辺には他の被爆遺構のほか、美術館などが立地。  
線的な地域資源には旧宇品線の廃線跡がある。





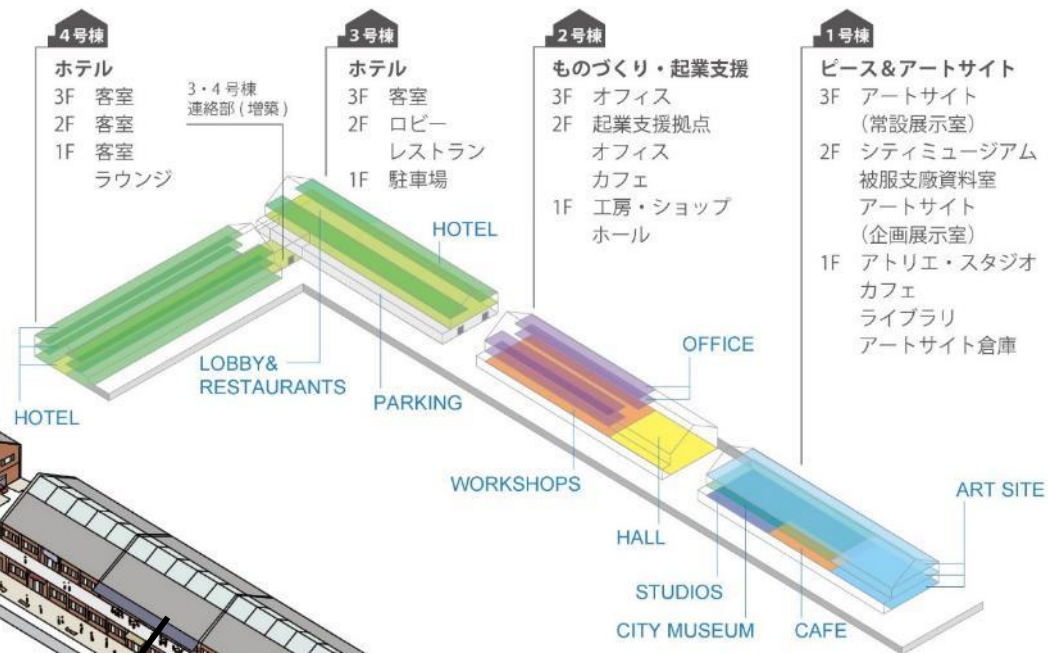
## ■再生イメージの骨子

- ①建物を長期的に保存するため、**愛着を持たれ、維持費を自ら稼げる、多くの人を訪れる用途**を導入
- ②広島近現代史に触れ、復興と平和を巡る人々の活動を知るとともに、世界への情報発信を担う  
(丹下が述べた「**平和を創る工場**」の機能補完)
- ③ものづくりの歴史を継承した創造的な活動を担う
- ④観光客の滞在時間延長に寄与し、地域経済へのメリットを生む
- ⑤**公民連携事業**を基本とし、棟ごとに保存と活用のバランスを変える

# 再生イメージ



施設運営は  
公民連携事業化



3・4号棟 ライフスタイルホテル

2号棟 ものづくり・スタートアップ支援

1号棟 ピース&アートサイト

# ■ 1号棟：ピース&アートサイト

保存重視。シティミュージアムやアトリエなど。（公営前提）



広島をテーマとする作品の常設展



滞在制作



シティミュージアム  
（被服支廠自体の資料  
展示も含む）

観光客の滞在  
時間が増える





# ■ 1号棟：ピース&アートサイト

保存重視。シティミュージアムやアトリエなど。（公営前提）



# ■ 1号棟：ピース&アートサイト

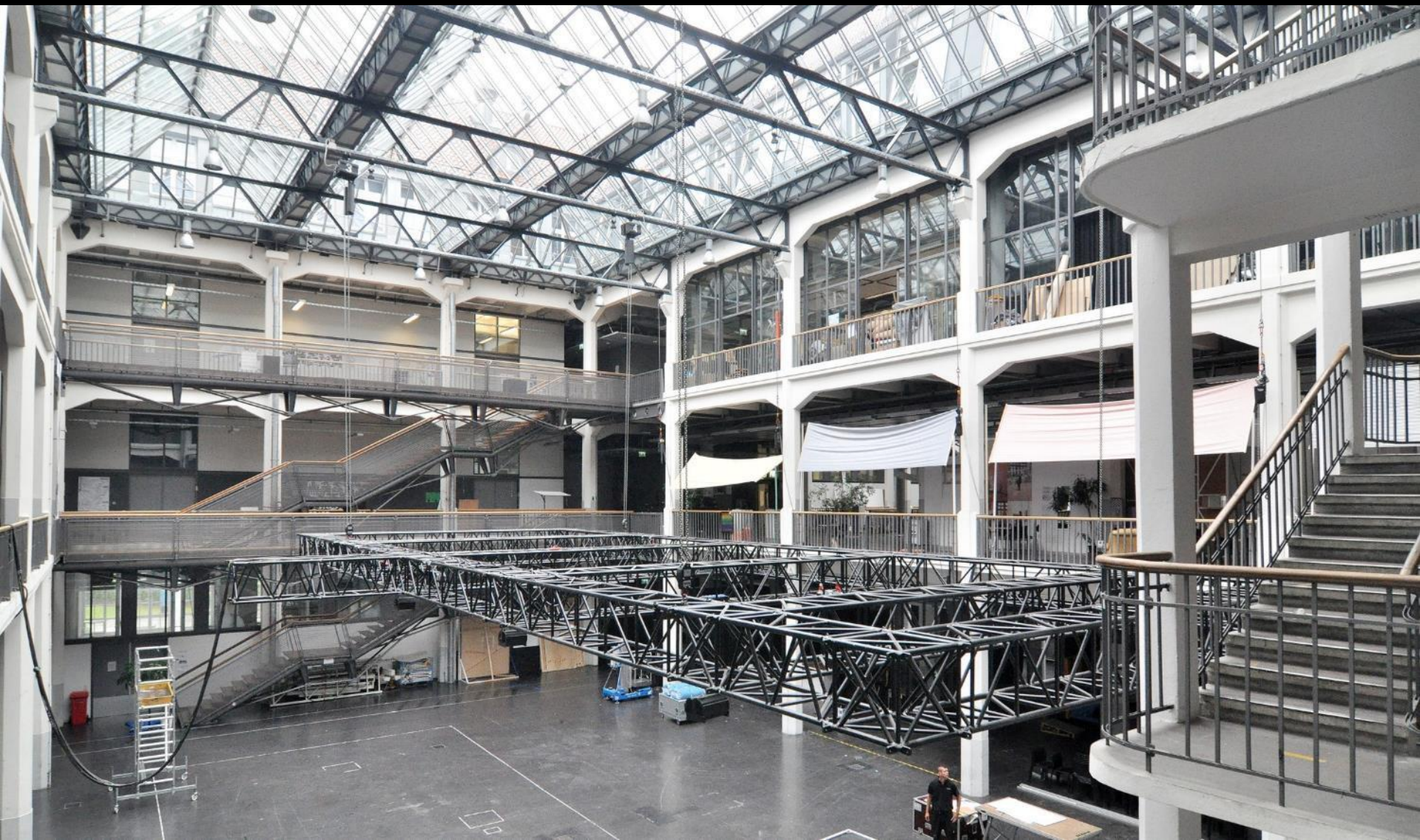
工場 ⇒ 現代美術館：Dia Beacon（アメリカ）





# ■ 1号棟：ピース&アートサイト

工場 ⇒ メディアアートに特化した施設：ZKM（ドイツ）





# ■ 1号棟：ピース&アートサイト

## シンガポール シティミュージアム



# ■ 2号棟：ものづくり・スタートアップ支援 活用重視。産業振興の目線を入れつつ民営ベース

2階には飲食店も



ホール



起業支援  
カウンター



工房・ショップ



シェアオフィス





# ■ 2号棟：ものづくり・スタートアップ支援

倉庫⇒スタートアップ系オフィス：Industry City（アメリカ）





# ■ 3・4号棟：ライフスタイルホテル

活用重視。交流・体験を付加価値とするホテル（民営）



床と屋根を一部撤去し建物  
内に吹き抜けを作る



他棟（アートサイトやものづくり拠点）  
と連携し、特別な体験をしながら滞在で  
き、様々な人と交流できることを付加価  
値とする「ライフスタイルホテル」。

# ■ 3・4号棟：ライフスタイルホテル

倉庫 ⇒ テーマ性のあるホテル：ONOMICHI U2（尾道）





## さいごに...

近年も多くの被爆建物が失われており、補助金だけでなく、持続可能性を与える総合的なサポート（空き家再生事業にも似た）が必要と考えられる。

残り僅かとなった被爆建物を次世代に受け継げるかは被服支廠倉庫の再生にかかっている。



※広島アンデルセン（写真左端）は壁面の一部が保存されている